

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290500014		
法人名	株式会社マウントバード		
事業所名	グループホームみどりの家		
所在地	千葉県千葉市緑区誉田町2-11-105		
自己評価作成日	令和4年12月20日	評価結果市町村受理日	令和5年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町1107-7		
訪問調査日	令和5年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

“みどりの家”の名の通り、緑豊かな環境の中で、その人がその人らしく尊厳を持ち日常生活を送れるような自立支援を実践出来るよう努め、“笑門来福”の理念を入居者様、ご家族、職員、皆で共感・共有出来るような支援を心がけ継続している。又、3ユニット間での情報共有の為、申し送りでは他のユニットでの申し送り事項も共有したり、他ユニットへヘルプに入ることによって3ユニットもあるためいろんな入居者様や職員と関わることが出来スキルが上がったりコミュニケーションが取れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

数年前に協力医療機関を365日、24時間対応のクリニックに変更した。クリニックではデイケアもおこなっている。ホームでも、認知症デイケアや作業療法士によるリハビリテーションなどを利用している。その他、皮膚科や整形外科、歯科の往診もあり、充実した医療連携のもと、利用者の健康管理をおこなっている。コロナ禍によるオンライン会議開催のためにタブレットを導入した。そのタブレットを用いて、家族とアプリケーションを接続し、利用者の日々の様子、行事の写真や連絡事項を家族に送っている。最新情報を直接伝えられ、働いている家族にとっても連絡が取りやすくなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みどりの家の理念「笑門来福」を目につくフロアの真ん中に掲示している。常に笑顔でいれるよう実践しています。	ホーム独自の理念をより簡潔にまとめ直し、「笑門来福」として掲げている。入社オリエンテーションで説明したり、フロア会議で理念と実践状況について、振り返りや理解の促進を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域の交流は控えています但町内会の回覧板が回ってきた時や回す時に情報交換や交流をしています。町内会の赤い羽根などの募金もよく来るので必ず協力するようにしている。	町内会に加入しており、新型コロナの流行前は、地域の盆踊りなどに招かれて参加していた。現在は感染防止の観点から、交流を控えている状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	消防署の立合いで避難訓練を行う際等に認知症への知識や理解をお伝えしている。コロナ禍以降は外部との接触は控えているが職場見学、入居見学、実務者等の実習生は対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍以降は、中止していた。終わりが見えないとなった所で書面開催としたが、民生委員さんが協力的じゃなく悩んでいる。	今年度の運営推進会議の開催は、書面開催にておこなっている。職員の他、家族、地域包括支援センター、薬局の薬剤師の参加があり、議事録に意見が記載されている。	新型コロナ収束に向け、民生委員、地域の代表等を交えた運営推進会議を対面方式で定期開催し、地域の理解と支援を得る体制づくりが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者と計画作成者が取り組んでいる。1階には生活保護受給の入居者が1名、障害者雇用の職員が1名いるので障害支援課、援護課での相談・案件相談で包括支援センターへ相談等行っている。	生活保護受給者の受け入れや障害者雇用をおこなっており、行政の保健や福祉の関係課、地域包括支援センターなどと日頃から密接に協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	本部で開催する身拘束内部研修へ、なるべく各フロア1名参加し、参加後フロア会議で職員への周知を行っている。新しい職員が入職した際には参加をお願いし身体拘束への意識を持ってもらう。	玄関は自動扉であり、普段は施錠されている。外出希望の利用者には職員が付き添っている。3ヶ月に1回、法人本部とホームとで身体拘束適正化委員会を開催している。出席した職員はフロア会議で報告し、禁止対象行為について共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3ヶ月に1度、系列の全施設から担当を集めて虐待防止委員会を開催している。委員会での内容を持ち帰り、フロア会議で報告し職員への周知を行っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している利用者様が2階に入居された事を期に、合同フロア会議やホーム長から制度についての説明があり、学んだ。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学や入居予定者の面談時、契約の際に管理者が分かり易く十分な説明を行い、不安な点、疑問点を傾聴、回答しお互いに齟齬の無いよう努め、納得して頂いた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の家族様来所時、電話があった際等、ご家族とのやり取りの中で適宜意見や要望を傾聴し、反映出来るよう努めている。	コロナ禍以前は、敬老会や納涼祭に家族も参加しており、その際に要望なども聴取していた。現在は運営推進会議で家族の意見を汲み上げている。意見や要望はフロア会議で共有し、運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議、朝の申し送り、1階全職員のグループラインも意見交換に利用している。管理者が話しやすい雰囲気を作るようにしている。	アプリの機能を活用し、正社員のみ、全職員対象、各フロアなどのオンライングループを作り、必要な情報が交換できるようにしている。これにより職員個々の意見聴取、意思決定や対応の迅速化を実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員と個別に話をする機会を設け、現状の把握や要望を傾聴し各々が向上心を持ち、やりがいを持ち働ける環境の整備に努めている。本部に提出する面談シートも活用して定期的に個別面談、ラインでの個別の相談も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に全職員に本部の内部研修に参加させている。資格取得も促し取得の際はシフトに配慮して有休活用しスキル向上を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者との交流は控えているが、内部研修で他施設の職員と交流している。ZOOMの時もあり。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で、入居に関して不安や要望等を伺い、本人の意向に沿うよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族の話を傾聴し、話を必要とするサービスについて考え説明して、安心して利用して頂ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合い時に必要とするケアを考え、時には他のグループホームやサ高住の見学も進め検討して頂いている。当ホームで利用できる、医療保険を使ったデイケアも提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様、職員が“お互いを尊重し支えあいながら共同生活を営んでいる”という意識で関わるように努めている。 掃除や洗濯、調理等、出来る事を一緒に新しい生活を営んで頂いている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	美容室へパーマをかけにご家族と行ったり、プレゼントを直接お渡し頂いたりする事で、ご家族との関わりや関係を大切にさせて頂ける様努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍においては、ホーム内での面会は基本的には行っていないが(看取りケア中は別)窓越しでの面会や、オンラインでのテレビ電話を利用しての面会を行っている。	ホームに無線LANを設置しており、ビデオ通話を利用できる。コロナ禍で家族など来訪者との面会は中止しているが、ビデオ通話で顔の見える対話ができている。年賀の電話をかける支援もおこなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃から利用者同士の関係性の把握に努め、フロアでの座席の位置調整や、間に職員も入る事で、より良い関係性が築ける様に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居等で退居が決定した後も、気軽にお声がけ頂けるようにお話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中から、それぞれの希望や意向を把握し、共同生活の中でそれぞれの希望や思いに沿った生活が送れる様に努めている。	契約時に意向を聞き取り記録している。意思疎通が困難な場合は家族の意見を参考にしている。利用者の思いは、記録や申し送りを通じ職員間で共有している。新聞を読む、毎日ヨーグルトを食べるなど、個々の習慣を支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者様本人や、ご家族から話を伺い、これまでの生活歴や暮らし方等の情報を集め、職員間での情報共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の各種記録や申し送りを通じて、一人ひとりの状態の把握に努めている。又、フロア会議にて気になる点等を話し合い、対応を考えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様、ご家族の話を傾聴し、フロア会議の場で職員の意見やアイデアを出し合い、介護計画を作成している。	計画を作成したり見直しをする時は、利用者、家族の意向に沿い、職員間で意見交換の上、計画作成担当者が作成している。介護計画はフロア会議で共有し、3ヶ月で見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録に変化や気づき、実践と様子や結果を記入し、職員間で共有出来るようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現状に即したニーズの把握に努めている。職員間での意見交換やアイデアを出し、それぞれに合ったかかわり方が出来る様に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の消防署立ち合いの元で、職員と参加可能な利用者が参加しての防災訓練を行っている。(コロナ期間中は自粛)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が定期で往診に来て利用者様それぞれの状態を共有している。他に皮膚科や整形も毎月1回、往診が入っている。入所前から利用している外部受診を希望があれば継続できるように支援している。	協力医の往診が月2回、皮膚科、整形外科の往診が月1回ある。協力医には24時間365日相談できる。この他、法人の看護師が週1回、訪問歯科が週1回、ホームを訪れている。送迎バスでリハビリのデイケアに通う利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	弊社所属の看護師が毎週来所。職員からの話や、連絡ノート、記録を通じ入居者様それぞれの状態を共有している。又、往診時に立ち合いも行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連絡を密に取り、早期退院、受け入れる環境作りに努めている。又、フロア会議や申し送りノートを通して、現状を職員間で共有出来る様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えるにあたり、可能な範囲ではあるが利用者様、家族の意向に沿った支援が出来る様に努めている。又、かかりつけ医や看護師と話をし情報共有出来る様にしている。	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」に沿って利用者、家族に説明し、同意を得ている。職員は看取りのケアについて、提携する看護師から指導を受けている。看取りをおこなった際は、職員間で振り返りの話し合いをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急通報の手順や連絡先をマニュアル化し、事務所内に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の消防署の立ち合いの元、防災訓練を行っている。又、発電機や備蓄品を拡充し災害対策を行っている。	避難訓練は年2回実施している。うち1回の消防署立ち合いはコロナ禍で休止となっている。過去の災害体験を活かし、3日分の備蓄品、発電機も備えている。備蓄品は消費期限管理がなされており、発電機は4台用意されている。	災害時の避難に関しては、近隣との助け合いが必要と思われる。今後は地域の警察や消防、近隣住民との連携強化に取り組むことを期待する。

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様、一人ひとりの人格、尊厳を守りながら、尊敬を持ち接するようにしている。又、虐待防止委員会で話し合われた言葉による虐待についてもフロア会議で報告し、職員間で共有出来るようにしている。	毎月のフロア会議で、プライバシーの尊重について意見交換している。利用者への言葉づかいが気になる際は、管理者がその都度指導している。虐待防止委員会を立ち上げ、虐待について職員間で共通理解を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、利用者様の思いや希望が話せる関係性を築き、話が出来様努めている。又、分かり易い言葉掛けや、それぞれが意思を表せる尋ね方を心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様それぞれのペースに合わせて生活をして頂けるように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備時や起床時等、極力、利用者様それぞれの意志を尊重した服で過ごして頂くようにしている。訪問理容の利用時にも、それぞれの希望する髪型にして頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様それぞれの能力を発揮して頂き、下準備をしたり、メニュー表の記入をお願いしたりしている。又、日常会話の中から好みの把握にも努めている。	委託業者が献立作成、食材を納入し、職員が調理している。利用者は皮むきなど、できることを担っている。季節のメニュー、誕生日ケーキ、リクエストメニューなどの行事食も多数あり、楽しめるよう取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの食事量や水分量を記録し、常に確認出来る様にしている。常食が難しい方にもミキサー食を提供したり、医療職と相談して、栄養剤を経口摂取して頂いている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行って頂けるようにしている。希望者は訪問歯科を利用して口腔内の状態を定期往診で診てもらい職員間で共有し、清潔の保持に努めている。			

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの排泄記録を付け、パターンの把握に努めている。間隔の空いた方には、声掛けや誘導を行っている。	排泄は自立支援の重要な要素と捉えている。排泄記録で個々のパターンを把握し、職員間で共有し利用者へ声かけをしている。声かけの際には、直接的な表現にならないよう工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄を促す為、レクリエーションでの運動への参加の声掛けや、牛乳を提供する等している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時にT字剃刀で髭剃りをして頂いたり、湯船に浸かりたくない時にはシャワー浴や入浴日を変更する等している。冬は庭に沢山の柚子が生るので入居者様と収穫し柚子湯を楽しんでいる。	入浴は週3回午前中となっている。浴槽に入れない利用者はシャワー浴としている。入浴をしたくないという場合には、対応職員を変えたり日を変えたりするなど工夫している。庭で採れるゆずを利用したゆず湯は楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活リズムに合わせて休息が取れるように努めている。入床時間も、それぞれに合わせている。気持ちよく快適に眠れるよう居室内の温度や寝具などの調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には職員2人での確認を行ってから服薬して頂いている。又、それぞれの薬情を職員が直ぐに確認出来るようにしている。薬の変更後、介護記録や日報への記録を記入し申し送りや医療職とも情報を共有出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	翌日のメニュー表の変更をしたり、食事の下ごしらえや掃除、洗濯物を畳む等、職員と一緒に家事や手伝いを行う事でそれぞれの役割を持ち、生活して頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦での外出は控えているが、人が少ない公園に鯉のぼりを見に行ったり、車内から桜を見にドライブをしたりしている。	鯉のぼりの鑑賞や桜の花見ドライブに出かけている。敷地の端にあるごみ置き場へ、職員と一緒に散歩がてらごみ捨てに行くこともある。職員の買い出しに利用者が付き添うこともしている。	

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族からの希望で本人が所持している方はいませんが、お小遣いをお預かりしており入居者様の希望や必要な物品の購入をしている。使用したお小遣いについては、ご家族にレシートをお渡しして説明後、サインを頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様が希望された際には、電話を掛けるよう支援している。又、ラインのビデオ通話を利用してのリモートでの面会も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた掲示物や飾りつけを入居者様にも一緒に行って頂き、季節を感じて頂いている。	リビングルームはくつろげる雰囲気である。壁には職員と利用者で作成した季節の飾りや貼り絵などが掲示してある。掲示物担当を決めており、特に七夕の飾りには力を入れている。たたみやソファで休める場所もあり、利用者は快適に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方が会話を出来るように座席を調整したり、TV前のソファで趣向に沿った番組や動画を見て寛げるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使用していた家具や寝具、その他の物品を居室内で使用して頂き、心地よく過ごせる様に努めている。	居室は広めでゆったりしており、大きめのクローゼットも備えている。壁にはカレンダーや写真などが飾られている。馴染みのものや家具の持ち込みを支援しており、位牌や遺影、テレビを持ち込んでいる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の扉に入居者様の目線の高さに名前を貼ったり、各扉にわかり易い表示をして、安全に自立した生活が送れるようにしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人コミュニティケア街ねっと